

皆様こんにちは、お元気でお過ごしのことと思います。



暑さ寒さも彼岸までと言われますが、季節は夏を過ぎ確実に秋に向かっていく様子が感じられるこのごろです。

コロナ感染症を避ける自粛生活が依然続いています、この生活にもだいぶ慣れてきた感があります。日常的に外出時はマスクを着け、密を避け、帰宅時にはうがい手洗いをする習慣が当たり前のようになってきました。

パンデミックとして世界中に広まったこの感染はいまだ留まることを知りません。

この間休むことなく携わってくださっている医療関係の皆様、私たちの生活をずっと支えて下さっているエッセンシャルワーカーの皆様、心より感謝申し上げます。

そしてこの感染により尊い命を落とされた方々への追悼を申し上げ、さらに今なお病床に付されている皆様の一日も早い回復を祈らせていただきます。

4月から始まったこの自粛生活もあっという間に半年が過ぎ、そしてこれからしばらくはこの状態が続くものと思われます。「6月の挨拶」ではこの感染が終わった時いったい自分は何をして過ごしていたのだろうと後悔の無いよう一日一日を大切に過ごしましょと申し上げました。

人と会い語り合い、共に食事をとり楽しく過ごすことが出来ず、孤独と不安に陥りがちになるこの時だからこそ出来ることは何でしょうか。一見不自由に感ずる毎日ですが、これまでスケジュールに追われ忙しく毎日を過ごしてきた時とは違い自分と向き合う時間がたくさんあることを大切に、自分力を高める機会として有効に生かして行きたいと思えます。

1200年前中国で仏教を学び日本で法華経を中心とした「天台宗」を開いた伝教大師最澄は優れた人材についてこう述べています。

＜国の宝とは何だろうか、その宝とは道心（道を求める心）にあり。

道心のある人を名付けて“国宝”と言う。

金銀財宝と言ったものは“国宝”ではない。

“一隅を照らす”事こそ“国宝”である。＞

＜よく行って、よく語りえる者は“国宝”である。

よく語ることが出来ても、行うことができない者は“国師”である。

良く行うことが出来ても、語ることができない者は“国用”である。

語ることも、行うこともできない者は“国賊”である。>

常に道を求めてこつこつと実践し、多くの人に声を掛けてゆくことが自分の周囲を明るく照らすこととなり、まさに一人一人が“一隅を照らす”ことによって国の平和が創られてゆくという大切な姿勢を教えて下さっています。

言い換えれば、この時期こそ時間を大切にご法話や教学書を開き学習し、学ぶことだけではなく実践を通じて立派な人柄づくりを目指せる恰好な機会にしたいと思います。私もこれまでに読めなかった本や、一度読んだ本の再読をしたり、クラシックやジャズの名曲に出会い感動と発見の半年を過ごすことができ、皆と会えないさみしさ半分、感謝の毎日です。

ある詩人が人生で大切なのは“！”と“？”の二つだと言っていましたが、忙しさに流される毎日から少しゆっくりした生活の中で感性を豊かにして行くと、これまで見えていなかったものが見えるようになり新しい発見があることと思います。“ありがたい”と言う感謝の言葉は有ることが難しいという意味ですから、あたりまえと思っていた毎日から、不自由を感じてみて初めて大事さに気付けるわけですから多少の不便は不満の種ではなく気付きの種として受け止める心がけをして行きたいものです。

10月は開祖さまご入寂の月でもあります。開祖さまは私たちに現実の生活に即した信仰生活のありかたを分かりやすくお説き下さいました。今月からはZOOMでの勉強をそのご法話を中心に学びたいと思います。

合掌

RKNY 畠山友利

